今だからこそ訴えたい「本物へのこだわり」

この特集は本社ホームページ（http：//www.kankokeizai.com）でもご覧いただけます

お湯の魅力で〝千客万来〟

こだわりの宿 お湯自慢特集

温泉は旅館・ホテルにとって、顧客への強力なアピール材料のひとつだ。その魅力に磨きをかけ、日々誘客に努めているだろう。しかし温泉の偽装問題が各地で発覚し、消費者からの温泉地と宿に対する信頼が揺らいだのは記憶に新しい。良質の温泉を誠意をもって供給する施設にとっては、見過ごせない問題といえる。そこで今回は、全国各地の「お湯自慢の宿」6軒について、そのこだわりぶりを紹介した。いずれも「お客さまを安心して送れる」と、旅行業者から高い評価を得ている宿だ。（なお、今回の特集は1日平均4・5万アクセスがある本社ホームページとの連動企画です。ホームページに「お湯自慢特集」のページを設けていますので、そちらもご覧下さい）

山形県・蔵王温泉

蔵王四季のホテル

離れの温泉棟オープン

山形県蔵王温泉の蔵王四季のホテル（伊藤八右衛門社長）は11月1日、離れの温泉棟「離れ湯百八歩」をオープンした。効能豊かな硫黄泉と、檜造りの風情ある建物が、早くも利用客から好評を博している。

ホテルから歩いて108歩で着くことから「百八歩」と命名。男女別の内湯、露天風呂と足湯を備えている。

最大の特長は、同ホテルの姉妹館「おおみや旅館」の源泉を使用していることと。千年の間、絶えることなくわき続ける源泉は、美肌効果や神経痛、リウマチなど様々な疾病に効果があると言われる。

眺望にもこだわり、日中は蔵王連峰・竜山の絶景を一望。夜は幻想的なかがり火が人々の心をいやす。

足湯前方の鏡石は蔵王の自然を絵画のように映し出す。

温泉棟オープンに合わせ、ホテルと温泉棟の間の消雪工事を行った。雪が降っても下駄ばきで温泉棟まで歩けるのがうれしい。

▽蔵王四季のホテルは山形県山形市蔵王温泉1272。☎023・693・1211。

離れ湯百八歩の露天風呂

群馬県・四万温泉

四万やまぐち館

「四万の病」に効く湯

群馬県四万温泉の四万やまぐち館（田村亮一社長）は、女性に人気の宿、リピーターが多い宿として定評がある。

人気の理由は旬の料理、多彩なイベントとともに、温泉にある。「お題目大露天風呂」「渓流露天風呂」「総檜大浴場」、そして4つの「貸切展望風呂」があり、いずれも「四万の病に効く」という良質の温泉をぜいたくに使っている。

「お題目大露天風呂」は、昔、同館を洪水から守ったというありがたいお題目を彫った大岩が置かれている。

「渓流露天風呂・四万川の湯」は、障子と床の間をしつらえた落ち着いたたたずまいの湯。渓流を臨む3つの浴槽がある。

「総檜大浴場・つぼ湯」は、薬つぼを持つ温泉薬師様の足元から良質の温泉が流れる。このほか最上階の8階には4つの貸切展望風呂を備えた。

入浴後は女将が薦める同館オリジナル基礎化粧品「くみこスパライフ」を使ってみたい。

▽四万やまぐち館は群馬県吾妻郡中之条町大字四万甲3876―1。☎0279・64・2011。

温泉施設が充実

山形県・あつみ温泉

萬国屋

広い内湯と野趣いっぱいの露天

いまからおよそ千年前、弘法大師が発見したと言われるあつみ温泉は、日本が誇る東北の名湯だ。温海川の両岸に大小の温泉旅館が軒を連ね、情緒ある温泉街を形成。伝統を誇る朝市では、赤かぶ、しな織りといったこの地方の特産品を、気さくなおばちゃんたちが販売している。売り手と観光客との丁々発止のやりとりは、温泉街の名物となっている。

同温泉きっての名門旅館、萬国屋（本間儀左衛門社長）は、食やサービスとともに、充実した温泉施設が自慢の宿。1階大浴場、1階貸切風呂、3階大浴場それぞれが特色ある趣向で、来る人を楽しませている。

1階大浴場は「桃源山水」と言われるあつみ温泉の名で、新たにリニューアルオープンした。広々とした内湯と、庭園大露天風呂「桃里の湯」で構成し、特に大露天風呂は居並ぶ大岩と季節ごとに咲き誇る花々が野趣を高めている。

1階貸切風呂は「蕩蕩（とうとう）の湯」と「遥遥（ようよう）の湯」の2つ。それぞれ畳敷きと石畳の趣向の異なる湯で、プライベートないやしの空間を思う存分楽しめる。1時間単位の貸し切り。

3階大浴場空間を新たに楽山楽水サロンとしてリニューアル。従来からの大浴場に、リフレッシュサロン「ラ フィネ」、エステサロン「カメリア」、さらに岩盤浴「月あかり」が誕生した。個室型なので気兼ねせず、ぜいたくなデトックスタイムを満喫できる。エステサロンでは本格的な美顔・全身エステが受けられる。

なお、1階と3階の大浴場は男女入れ替え制。1泊の滞在で2種類以上の浴場に入れるよう配慮している。

源泉の温度は70度。泉質はナトリウム・カルシウム・塩化物硫酸温泉。切り傷、やけど、湿しん、皮膚病、神経痛、リウマチ、婦人病など、様々な疾病に効果があると言われている。

▽萬国屋は山形県鶴岡市湯温海丁1。☎0235・43・3333。

庭園大露天風呂「桃里の湯」

岩盤浴サロン「月あかり」。4つの個室と開放感あふれる涼み処（ラウンジ）

長野県・戸倉上山田温泉

ホテル亀屋本店

〝いやしの施設〟を充実

長野県戸倉上山田温泉のホテル亀屋本店（高野和也社長）は1901年（明治34年）開業の、同温泉最古の旅館だ。

歴史ある旅館だが、時代のニーズに合わせて毎年のように施設の新・増・改築を進めている。豊富な湯量を生かした温泉施設の拡充ほか、今年はデトックス（解毒）効果抜群のストーンスパ、和風モダンのカフェバー、芸術作品の展示もできるライブラリーを新設した。

温泉施設はパブリック風呂が4つ、貸切露天風呂が5つの計9つ。昨年5月に貸切露天風呂を2つ増設し、いやしの施設を充実させた。

増設した貸切風呂は浴室、脱衣室、ウッドデッキに加え、自然の植栽を埋め込んだ庭園からなる。浴場の床と壁はすべて檜。浴槽には御影石と陶器の2種類を用意した。

貸切風呂には檜造りのアプローチを抜けて入る。山荘の離れをイメージしたものので、「非日常的な雰囲気を楽しめます」と高野社長。

▽ホテル亀屋本店は長野県千曲市上山田温泉1―37―1。☎026・275・1002。

貸切御影石風呂

静岡県・堂ヶ島温泉

堂ヶ島温泉ホテル

独自の源泉を掛け流しで利用

静岡県西伊豆・堂ヶ島温泉の堂ヶ島温泉ホテル（小松原正信社長）は、天然温泉・自家源泉掛け流しの宿だ。堂ヶ島の瀬浜海岸に面し、堂ヶ島のシンボル、三四郎島の正面に建つ同館は、ヴィラ風のひな壇式の白亜の建物。客室はすべてオーシャンビューで、駿河湾の雄大な眺望を楽しめる。西伊豆の旬の素材を生かした海の幸満載の料理も自慢のひとつだ。

温泉は堂ヶ島の旅館・ホテルで唯一、独自の源泉から引いている。昭和37年、同館の創業者小松原三郎氏が個人で湧出させたこの源泉は、堂ヶ島温泉の開祖となる第1号温泉。大浴場、露天風呂、貸切風呂のほか、客室風呂、蛇口からの湯など、すべてに利用している。

海から数メートルの地点にある源泉だが、塩分など肌の潤いを保つことから、別名「化粧の湯」とも呼ばれる。ミネラルウオーターに入っているような感覚で、肌に刺激が少ないのも特徴だ。温泉は飲用もでき、体の中から温泉の効果を実感できる（飲泉所は大浴場「オーロラの湯」入り口に設置）。

この良質の湯は、同館でしか味わえない。大浴場「オーロラの湯」は、すべて源泉掛け流しの浴槽。御影石とステンドグラスを多用した明るい雰囲気のクアハウス風浴場。サウナ、寝湯も装備。

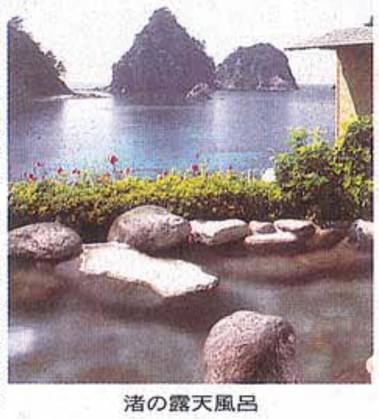
「渚の露天風呂」は、海を目前にした開放感あふれる露天風呂。海と一体化した錯覚を覚えるほどだ。入浴時間は夕刻がおすすめ。湯船に浸かりながら見る夕焼けは感動的だ。

貸切岩風呂は「瀬浜の湯」「磯笛の湯」の2カ所。貸し切りにしては広めで、プライベート空間をゆったりと楽しめる。45分単位の貸し切り。

このほか露天風呂付き客室も用意。これらはすべて源泉掛け流しで、ぜいたくな温泉ざんまいを楽しめる。

▽堂ヶ島温泉ホテルは静岡県賀茂郡西伊豆町堂ヶ島。☎0558・52・0275。

オーロラの湯


渚の露天風呂

長野県・戸倉上山田温泉

雅の宿・旅亭たかの

客室数超える風呂持つ

雅の宿・旅亭たかの（高野和也社長）は、ホテル亀屋本店の貴賓館と位置付けられている。

客室8室という小規模旅館だが、男女大浴場と男女露天風呂、貸切風呂を備えるというぜいたくさだ。さらに8室のうち5室は露天風呂を併設。1泊の滞在で入りきれないほどの充実した温泉施設を持つ。客室数を超える風呂を持つ旅館は全国でも稀有の存在だ。「特に客室露天風呂はお客さまにかなり認知されてきて、人気が上がっています」と高野社長は言う。

「梅の間」の風呂には赤の御影石、「鶴の間」の風呂には白の御影石を採用するなど、意匠も凝っている。

ホテル亀屋本店とともに源泉掛け流しで、加温、加水は一切していない。アルカリ性の天然単純硫黄泉で、美肌、疲労回復に効果があると言われる。

「大地の恵みで、幸いにも湯量の豊富な温泉をいただいています。源泉掛け流しは当館の最大のセールスポイントです」（高野社長）。

▽雅の宿・旅亭たかのは長野県千曲市上山田温泉3―55―1。☎026・276・3001。

亀の間の客室専用風呂

創る、歌う、聴く　JASRAC

♪音楽♪の感動をわかちあおう

今こそ歌の優しさ、情けが必要

作詞家・JASRAC理事
たかたかしさん

たか・たかし　立教大中退。放送作家として各種音楽番組を手がけ、77年から作詞家活動に。西城秀樹「情熱の嵐(鈴木邦彦作曲)、松崎しげる「愛のメモリー」(馬飼野康二作曲)などヒット曲多数。新潟県出身、72歳。日本作詞家協会理事長、日本音楽作家団体協議会理事など兼務。03年紫綬褒章受章。

世界の人の情というか、そういう世界に思いをめぐらす。そうすればいじめや殺人事件なども起こらないのではという気がしてなりません。

たか　おっしゃる通りですね。演歌が蔑まれたり、いずれは消えていく、という人もいますが、そういう時代は悲しいですね。

臼井　でも絶対残りますし、残して欲しいですよね、これは日本人の心だと思います。

たか　今の世の中、これでいいと思っている人はいないでしょう。演歌の心がもっと皆さんに認めてもらえるような時代になって欲しい。

——思い出に残る曲といえば。

たか　好きな歌とか思い出に残る歌はいっぱいありますが、いわゆる代表作はこれから書きますが(笑い)。私はこれから先、次の世も、また次の世も歌書きでありたいと思っていますから。

臼井　じゃあ、あの世で会えますね、絶対。

たか　ぜひ会いたいですね(笑い)。

臼井　でも私が宿を作ってからいらして下さいね(笑い)。

——旅館にはいろんなお客さんがくるでしょう。

臼井　先日、エジプト大使がお泊まりになりました。話を聞くと演歌が好きとおっしゃる。それで私がピラミッドを着物と草履で登ったという話をしましたら、大変喜んでいただきました。大使は「ぜひまたエジプトに来て下さいい。今度いらしたら、私が紋付袴で一緒にピラミッドに登り、そこで演歌を歌ってあげる」と約束した気分になりました。外国にいると、演歌の持つ優しさ、人の情け、日本旅館の温もりや癒し、そういった日本本来のものが本当に分かります。私の子どももそうですが、若いうちに外国に行かしたほうがいいですよ。そうしたら日本の良さが理解できる。

臼井　日本を客観的に見ることはとても大切です。

たか　私は親父に勘当されて東京に出てきました。その親父が初めて「おぉ、お前頑張ったな」と言ってくれたのは、美空ひばりさんの歌を書いた時です。それまでは私の仕事に対して全く見向きもしなかったのですが。嬉しかったですね。

——それは作詞家になられて何年くらい経ったころですか。

たか　ひばりさんの歌を書いたのは昭和55年ころですね。最初は西城秀樹君や松崎しげる君などのいわゆるポップス系でした。でも気持ちの中では演歌を書きたいっていうのがずっとありました。で、どうせ演歌をやるならひばりさんの歌を書きたいと。しかし、ひばりさんの歌を書きたい人はいっぱいいるから、よくて10年後くらいだろうなと思っていました。ところが、演歌を書き始めて1、2年たったころかな、運良くひばりさんと仕事ができた。それが「おまえに惚れた」という歌でした。人間、運っていうものがあるんだなぁとつくづく思いましたね。

臼井　でも、努力しない人のところには運はきませんよね。

臼井　今はそうでもありませんよ。昔はひとり旅の女性は自殺するのではといわれてましたからね。

たか　ひとりの男は他の部屋を覗き見するんじゃないかってね(笑い)。

——先生はどちらの方にお住まいですか。

たか　大田区の久が原です。

臼井　当館は世田谷区と大田区の指定旅館なんですよ。ですから、先生、ぜひ利用して下さい。

たか　ありがとうございます、そうと分かればぜひこれから使わせていただきます。

♪身近な歌を♪

——これから先、どんな歌を作っていこうと。

たか　家族の絆とか友情とか、そういった身近な出来事を取り上げたいという想いが強いですね。自分にやっぱり正直になっていくんですよ。また、人から与えられたテーマでやるよりも、自分で最初から企画を立て、書いて、歌手を選び、それがうまくはまって、ヒットすると「どうだ、ざまあみろ」と(笑い)。またそれが一番嬉しく、やってて楽しい。仕事の仕方は確かに変わって来てますね。

——旅館と歌は切り離せない関係ですが、旅館の皆さんに一言あれば。

たか　結論から言うと、いつもお世話になっております、ありがとうございます、ですね。皆さんが著作権を理解して協力して下さるからこそ作家は仕事をしていられるんです。自分の作った歌は親が娘を嫁に出すようなもので、あの歌はどうしてるかなぁとか。今でも覚えてるのは、初めて自分が作った歌を渋谷のガード下を通りかかりに聴いた時の嬉さですね。「これ俺が作った歌なんだ」と叫びたい気持ち(笑い)。そのころの気持ちを決して忘れちゃいかんと。

臼井　その歌は?

たか　西城君の「情熱の嵐」です。

——初心を忘れてはいけない、と。

臼井　ホテルももちろんいいですけど、旅館の持つ、障子、襖があって、床の間には書が掛けてあって、心が癒される宿。初心を忘れず、日本の伝統と文化を残すそういう宿を後世にしっかりと伝えたい。

人々の生活にとって歌は欠かせない。また、旅館・ホテルも館内にBGMとして流したり、カラオケ施設で使われたりと切っても切れない関係にある。そこで、数々の名曲を作り世に送り出した作詞家のたかたかしさん(日本音楽著作権協会理事)と、女将として初めて黄綬褒章を受章した花の宿松やの女将、臼井静枝さんに音楽との出会いや思い出などを語っていただいた。司会は江口恒明本社社長。

(JASRAC会議室で)

——先生は放送作家のご出身ですが、作詞家になったきっかけは何ですか。

たか　やはり人との出会いですね。いろんな放送の台本を書いている中で音楽関係者と接する機会が増えまして、そのうち作詞の依頼を受け、歌の世界へ入ったということです。元々文学や映画が好きでしたし、割と早熟で流行歌もよく聴いていましたね。

——臼井さんは「生まれ変わったらまた女将をやる」というほど女将一途だ。女将は全国に6~7万人いる。その中で臼井さんは今春、女将として初めて黄綬褒章を受章された。

臼井　立派な女将さんは全国に沢山いらっしゃいますが、私の思い、「三途の川の向こうに行っても『花の宿』っていう宿屋をする」というのが平成天皇に聞こえたと思うんですの。それで私に来たと。

たか　私も生まれ変わったら作詞家になりたいですね。ところで臼井さんは竹久夢二に非常に惹かれているとか。

臼井　主人は学校の先生になりたかったんです。跡継ぎの問題で親子喧嘩も激しくて、そうした時に嫁の話が出まして。私の父も間に入って大変苦労した時期があったんです。その時に、夢二の「長崎十二景」の中の1枚の、精霊流しの絵に出会いました。男の子の手を引いて、海が見える丘から、灯籠が流れてくるのを見てる女性の絵です。その男の子の手を引いてこの女性は海の中に飛び込むんじゃないかしらと思わせるほど迫力がありました。その絵が当時の自分とだぶったんですね。それで私の人生は180度変わりました。それから恐いものがなくなりました。

♪ひとり旅が好き♪

——詩を書くということはイメージもあると思いますが、取材もするんですか。

たか　取材をする時もありますが、基本的にはあまりしません。私はひとり旅が大好きなんです。いつも鞄に時刻表や洗面道具を入れています。東京での生活や人との付き合いでストレスがたまると息苦しくなってくる。するとパッと汽車に乗って、あてもなく旅をするということを昔は結構やっていました。いろんなところに行ってますから、詩の材料は割とありますね。最近でもふらっと中山道の木曽路に行きまして。あいにく天気が悪く、風邪を引いて帰ってきましたが(笑い)。

——おひとりで?

たか　はい。みんなで一緒に行くのも楽しくていいんですが、基本的にはひとりがいいですね。ひとりになって違う時間の中に入っちゃうと自分と向き合うじゃないですか。いろんなことも考えられますし。

——臼井さんは旅館以外にいろんなことを手がけている。

臼井　当館は相田みつを先生の定宿でした。ですから先生が亡くなってから、先生のギャラリーを作りました。平成10年には夢二の美術館、そして昨年、宿の近くに人形の美術館を作りました。そういう時にはね、一生懸命念ずるんです。そうすると必ずそれが形になって花が開きます。私の好きな言葉「念ずれば花開く」ですね。

♪お客様の喜び♪

——しかし鬼怒川もあまり元気がない。経営も大変でしょう。

臼井　バブルが弾けてから旅行形態も変わりました。団体さんがなくなり、グループか家族連れのお客様中心ですからね。美術館なんてそろばん弾いたら商売にはなりません。息子からは「先のことも考えないで」と叱られますが(笑い)、お客様の喜びを、自分の喜びにして一生を終わりたいですね。

たか　女将さん、息子さんを叱った方がいい、「何を言ってるんだ」と(笑い)。女将さんの力でここまで導いてきたのだから。好きにすればいいんです。

臼井　夢二美術館は火曜日が休館日ですが、その時に来館したお客様がいました。たまたま私がいたのですが、聞いたら「母と一緒に北海道から来たが、もう観ることはできませんか」って言うんです。「ぜひ観て下さい」と開けましたら、おかあさんが出てきてもう泣いてるのね。「一時でも昔の女学生のころに戻れた」って。その時のことが忘れられません。休館日を知らないで遠方から来られる人のために、それから年中無休にしました。

たか　それがおもてなしということですね。

臼井　1人でも喜んでくださる方がいたら、それにやっぱり合わせていきたいですね。

♪手書きのもてなし♪

——臼井さんは東京で会合があっても、必ずその日のうちに帰るんですよ。「お客様が待っている」と。

臼井　鬼怒川に何十軒もある旅館の中からうちを選んで来て下さるのですから、できる限り朝のお見送りはしたいです。また、すべてのお客様にごあいさつできませんですので、せめて部屋の前に張るお名前は自分で書くようにしています。

——毎日ですか?

臼井　はい。予約のお客様の分だけは自分で書かないと気がすまない。

——何時間寝てるんですか。

臼井　4~5時間寝れば十分ですよ。習慣ですね。

たか　いや、お身体がご丈夫なんですよ。私も規則正しい生活をしているとはいえないが大病をしたことがない。丈夫な身体に生んでくれた親に感謝しています。

——人の心を打つ言葉、しみる言葉はどんな時に浮かぶのでしょう。

臼井　ある時ふっと浮かんでくるんですか。

その言葉が出てきた時には、割とスムーズにも書けるんですけれど、出ない時には、まぁ、こんなはしてらっしゃる。私も苦労しましたが、仕方がなかったですね。辛い時には、なんで俺だけがと思いましたが、今は苦労したことに感謝しています。そのお陰で今がある。

臼井　旅館経営も同じですね。もし私が老舗旅館に嫁に来ていたら、きっと今はなかったと思います。苦労させてもらったんで、今があると思いますよ。だから感謝ですよね。昔の苦労に。

——私もカラオケが好きだが、歌っているととても気持ちがいい。不思議なものですね。

臼井　カラオケをしている時のお客様は本当に良い表情をしています。見ていてこちらもいい気分になります。浴衣を着て、畳の上でマイクを持ったら、やっぱり演歌ですよ。

——先生はひとり旅が好きということですが、旅館はそうした客を嫌がる傾向にある。

たか　テーマが決まると、いつも、どこに行っても、何をしてもそれが意識の中にある。悶々としている時、ひらめきというのか、言葉がポッと見える時がある。辛い仕事はないですね。

——演歌はまた、曲を作る人、歌手が苦労してきたからこそ出せる味わいというか、深さがある。

たか　皆さんなにがしか苦労

演歌は"日本の文化であり伝統"

花の宿松や女将
臼井静枝さん

♪演歌の分かる年♪

——演歌というのは、人生の応援歌、なくてはならないもの。

たか　ある程度世の中を生き、人生の何たるかが分かってきた40代後半からの人たちのもののような気がします。歌詞やメロディを聴いて「そうだよなぁ」「そういえばそんなこともあったな」とか、そういう世界だと思います。今の世の中、演歌が流行っているとはいえないが、私は全く悲観していないですね。人間生きている限り、演歌の心みたいなものは絶対あると。

臼井　旅館でも宴席の場合、カラオケの注文は必ずあります。歌というか、演歌は日本の文化であり、伝統だと思います。演歌の

♪外国で聴いた演歌♪

——詩を作るのは大変な作業でしょうね。

たか　一時期全く書けなくなり、もうどうしようもなくて、ニューヨークに逃げるように行っていたころがあります。そこで日本の歌を避けて訳の分からない英語の歌やジャズなどを聴いたりしていました。そうしているうちに、聴くのがあれほど苦痛になっていた、離れたいと思っていた演歌が無性に聴きたくなった。現地には日本人もいますので、その人が持っていた演歌のCDを借りて聴いたのですが涙が出ましたね、救わ

日本音楽著作権協会(JASRAC)とは

家庭の中で個人的な複製など、法律で定められた例外を除き、音楽を利用する場合は事前に個々の作品の著作権を持つ「著作権者」(作詞家、作曲家、音楽出版社など)の許諾を受けなければならない。しかし、個々の音楽の著作権者を調べ、使用料を交渉し、許諾を受けるのは容易なことではない。また、世界各国の音楽を使うとなれば、海外の著作権者の許諾を受けねばならず、曲の利用は不可能に近い。

日本音楽著作権協会(JASRAC)は、国内の多くの作詞家、作曲家などから著作権の管理委託を受け、また、外国の著作権団体と互いの団体の作品を管理しあう契約を結んでいる。従ってJASRACに手続きをすれば、世界の多くの音楽を利用できる。

音楽を利用する時はJASRACに利用の申し込みをし、許諾を受け、所定の使用料を支払うことが必要だ。旅館・ホテル、カラオケ店など、毎日多数の音楽を継続利用している場合は、一定の条件のもと、包括的な利用許諾契約を締結している。

詳細は、JASRAC(☎03・3481・2121)。http://www.jasrac.or.jp/

著作権者の権利を守る